

■基調講演

講演テーマ「『教育にイノベーション』を興すとはどういうことか？」

①「安城学園の原点」について

②何故「教育にイノベーション」が必要なのか？

③誰が「教育にイノベーション」を興すのか？

④「教育にイノベーション」を興すために必要なもの

それは「不自由を受け入れること」である。

⑤「教育にイノベーション」を興すために必要なもの

それは「自由に振る舞うこと」である。

⑥「自由に振る舞う」ために必要なもの

それは「自己点検・自己評価」である。

⑦「安城学園教職員憲章」をなぜ制定したのか？

⑧最後に

安城学園教職員憲章

私たち一人ひとりが学校法人安城学園の教職員として建学の理念と建学の精神に基づいた仕事を通して「生きる意志と生きる力と生きる欲びに満ち溢れた』素晴らしい人生を送ることができるよう、ここに『安城学園教職員憲章』を定めます。

一、「誰でも無限の可能性を持つている」という創立者の信念を共有しましょう

一、「家庭に温かい心、職場に新しい息吹を与えるために「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神を実践しましょう

一、建学の精神の実践を通して、私たち一人ひとりの潜在能力を可能性の限界まで開発しましょう

一、職場と地域社会の課題を解決するために、私たち一人ひとりのマネジメント能力を高めましょう

一、「私たちの仕事はまちづくり」をモットーに、地域の人材育成を通して「三河のまちづくり」に貢献しましょう

一、無限の可能性に挑戦できるように、知・徳・体を鍛え上げるだけでなく、社会人基礎力も鍛え上げましょう

一、建学の理念「庶民性と先見性」を実現することによって、安城学園の歴史と伝統を継承・発展させましょう

学校法人安城学園創立100周年を記念して制定（平成二十四年十一月三十日理事会）

「真心（努力+奉仕）→感謝」について（「学園だより」平成24年4月号より）

学園において創立の原点の一つである「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神を実践することは仕事をする上で基本中の基本です。この四大精神を「真心」・「努力」・「奉仕」・「感謝」と4つに分解して、「真心を込めて行うことが大切です」・「常に努力することが大切です」・「奉仕の精神を忘れないことが大切です」・「何事にも感謝できることが大切です」と理解され、実践されています。

そこで、「真心・努力・奉仕・感謝」を「真心・努力・奉仕」「感謝」と前の3つと後の1つに分解し、更に「真心（努力+奉仕）→感謝」＝「真心・努力+真心・奉仕→感謝」と書き替えてみます。このように書き替えると、「感謝」が一番重要な価値として浮かび上がります。「感謝」には「感謝する」と「感謝される」の両面がありますので、ここでは「感謝される」の方を取り上げます。

すると、「感謝のためには努力が必要である。しかし、単なる努力では感謝までには至らない。

真心を込めることが必要である」と読みます。さらに、「感謝という価値を生み出すためには、努力だけでは足りない。奉仕も必要である。しかも、真心を込めた奉仕が必要である」と読みます。

つまり、「真心（努力+奉仕）→感謝」という公式は「感謝」という価値を生み出すための方法を示唆しています。「組織の内部に存在するものは努力だけである。成果は外部にしかありえない」というマネジメントの大家ピーター・ドラッカーの教えと相通じるものがあります。

さて、今まで学園が存続できたのは、この100年間「誰でも無限の可能性を持つている」という教育信条や「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神を大切にしてきたからです。これからも同じです。

創立100周年を機に、一人ひとりが今一度「創立の原点」に立ち返り「無限の可能性」に挑戦して「教育にイノベーション！」を興しましよう。

学校法人安城学園の社会人基礎力の12の能力要素の定義

I. 前に踏み出す力（アクション）

① 主体性

【定義】

目的・目標を自己のものとし、物事を一步でも前に進めるために成すべきことを自発的に探し出して積極的に行動できる力

② 働きかけ力

【定義】

目的・目標の達成に向けて、参加と協力・協働の輪がより広がる・より深まるように周囲の人々に対して積極的に働き掛ける力

③ 実行力

【定義】

目的・目標を達成するという強い意志の下に、PDCAサイクルの全ての局面で決められた事を期限までに確実に成し遂げる力

II. 考え抜く力（シンキング）

④ 課題発見力

【定義】

実態の的確な把握と分析に基づいて、問題点を洗い出し、目的・目標の達成のために有効でかつ納得できる課題を提案できる力

⑤ 計画力

【定義】

課題解決のために必要な具体的な手順・方法・スケジュール等をPDCAサイクルに落とし込んだ形で実施計画を提案できる力

⑥ 創造力

【定義】

固定観念や既存の発想に捉われない自由な発想・コミュニケーション・行動により、課題解決に繋がる新しい価値を生み出す力

III. チームで働く力（チームワーク）

⑦ 発信力

【定義】

自分の主張したいことを分かり易く整理して、相手に的確に理解してもらえるように伝えることができるコミュニケーション能力

⑧ 傾聴力

【定義】

相手の主張に対して心から丁寧に耳を傾けることができ、相手の主張したいことを的確に理解できるコミュニケーション能力

⑨ 柔軟性

【定義】

お互いの考え方や立場等に相違点があったとしても、それらを整理して理解した上で物事を一歩前に進める方向で対応できる力

⑩ 情況把握力

【定義】

自分の立場・役割・使命等を的確に認識して、自分と周囲の人々との関係性や進行中の物事との関連性を踏まえて行動できる力

⑪ 規律性

【定義】

人と人との約束事である一般社会のルール・慣習及びチームのルール・慣習等を十分理解し、それらを守った上で行動できる力

⑫ ストレスコントロール力

【定義】

ストレスの解消方法を身に付けているだけでなく、ストレスそのものを自己の成長のチャンスと捉えて前向きに行動できる力